

国土交通省中部地方整備局

## 名古屋港湾空港技術調査事務所

**【連絡先】** 〒457-0833 名古屋市南区東又兵衛町1丁目57-3  
TEL: 052-612-9981 FAX: 052-612-9477

全国の港湾空港技術調査事務所（以下「技調」）を訪ね歩くシリーズ企画「技調探訪」。第4回は、名古屋技調の近藤所長にお話を伺いました。



**【お話】**  
名古屋港湾空港  
技術調査事務所  
所長  
近藤 達男さん

### Q1 名古屋港湾空港技術調査事務所（以下「名古屋技調」）とは？

名古屋技調は、昭和37年に伊勢湾港湾建設部の設計室として発足しました。昭和49年には伊勢湾水理模型実験場が完成、平成13年1月の省庁再編により技術調査事務所として再編されて現在に至ります。当事務所では、中部地域における港湾や海岸の施設設計をはじめ、先進技術の

活用による災害対応の強化や、伊勢湾における環境調査など多岐にわたる業務を実施しています。



名古屋技調外観

### Q2 名古屋技調の特色は？

実験施設として、環境水槽、平面水槽、長水路水槽の3つの実験水槽があり、伊勢湾を2000分の1で再現し潮汐を発生することができる環境水槽では、陸域（河川）から流入



名古屋港新土砂処分場護岸の平面水槽実験の様子

する汚濁物質の拡散実験や、埋立てなど地形の変化による流況の確認などに使用してきました。また、見学者用コンテンツとして疑似津波を発生させて津波伝播の様子を見てもらうことにより市民の防災意識の向上に活用しています。平面水槽と長水路水槽は年1件程度の実験を実施し、最近では名古屋港新土砂処分場護岸の天端高とブロック重量について平面実験による検討を実施しコスト削減を追求しました。

### Q3 職場の雰囲気は？

職員13名（非常勤職員含むと17名）と少人数ですが、実験施設の運用を含め多様な業務を行っています。少人数ゆえ風通しがよく意思決定も早い職場です。

### Q4 名古屋技調の近年の実績・成果は？

今年度より着工した中部国際空港沖の名古屋港新土砂処分場埋立護岸に関し、漁業や環境への影響に配慮し前面に浅場を設けた石積み緩傾斜式護岸について一部区間の設計を完了したところですが、大型の構造物であることから、残りの区間の設計について、近年の石材価格の高騰を踏まえ、コスト削減を考慮した断面の可能性について検討しています。また、今年度供用を開始した名古屋港飛島ふ頭東岸壁

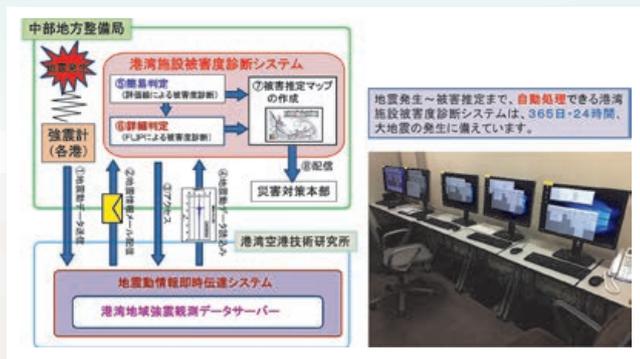


名古屋港新土砂処分場（白線が計画範囲）

橋式）に増深改良、清水港日の出ふ頭岸壁では、既設岸壁の鋼管杭を深梁工法により固定し耐震補強をするなどしています。

防災の分野では、大規模地震発生直後に供用可能な岸壁の迅速な判断を支援するため、強震観測情報を活用した港湾施設被害度診断システムを平成29年から運用しています。これにより、地震発生後、管内主要岸壁の供用可否を全自動で短時間に判定することが可能な体制となっています。このシステムの構築に当たっては貴センターに長年ご尽力いただきました。さらに、令和2年度より、甚大化する台風等自然災害の影響に鑑み、台風来襲時に防波堤等第一線港湾構造物がどの程度被災するか予測するシステムの開発について、貴センターのご協力のもと実施したところですが、さらに台風時の港内主要岸壁や堤内地の浸水深を把握することを想定したシステムのアップデートについて検討を進める予定であり、これらを踏まえた同システムの本格運用について、弊所として今後検討・対応していく予定です。

また広域な駿河湾における流況観測と津波等観測の可能性についても、貴センターのご協力のもと令和元年より御前崎に13.5MHz帯海洋レーダ観測局舎を設置し流況観測を実施しています。今後もさらなる観測データの精度向上を図っていきたいと考えています。



港湾施設被害度診断システム

は三重県津沖にモニタリングポストを追加し合計5か所となり、より広範囲の水質環境の把握が可能となりました。これらの観測データは伊勢湾内の水質環境を再現・予測するために開発された伊勢湾シミュレーターの予測精度向上にも使用されています。港空研と共同で開発してきた伊勢湾シミュレーターは、新土砂処分場整備や名古屋港港湾計画の環境アセスや漁業影響調査などにも活用されており、有識者の間でも信頼性の高い数値解析モデルであると認知されています。今後も伊勢湾の水環境の実態解明と伊勢湾再生へ向けた取り組みを実施していきます。

また、災害対応力の強化としてドローン操縦者の養成に取り組んでいます。実験棟の広い空間を生かし、これまでに50名以上の操縦者を養成しています。昨年7月に熱海市で発生した土砂災害においては、港湾ドローン調査班として計9名のドローン操縦者を派遣し、被災地の状況把握や復旧計画立案のための情報収集を実施しました。また、昨年11月の沖縄県での軽石観測調査においてもドローン操縦者を派遣しました。



ドローン操縦訓練の様子

**Q5** 名古屋技調の現在の取り組み、今後の抱負は？

伊勢湾に設置したモニタリングポストにより水質及び気象・海象データを24時間連続観測し、伊勢湾環境データベース上に公開中で、スマートフォンでも手軽に確認できるため漁業者の方々からも好評をいただいています。今年度



伊勢湾環境データベース(スマホ版)

**Q6** 当センターへのご意見等ございましたら

貴センターの知見や各地整との多様な業務経験を生かし、DXや脱炭素など新たな技術動向の提供や中部の特色に適した技術開発アイデアの提案、情報共有をしていただくことを期待しています。



ありがとう  
ございました。